

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年4月17日 NO.3

花ちゃん 「きのうのお話でもあったけど、人でも
植物でも名前がわかると楽しいし、
お友達になった気分になるというのは、
本当ですね。」



オー君 「そうだね。いろいろな人に会って、
お友だちになる時、まず、『名前なんて
いうの?』って聞くもんな。」



花ちゃん 「でもね、モンタ博士のお話では、植物の
名前をむりにたくさんおぼえようとしな
くてもいいよと言っていたわ。」

オー君 「大切なことは、いろいろな植物や虫など、
たくさんの生き物と出会うこと、ふれる
こと、観察するということなんだね。
あれ?モンタ博士。何してるんですか。」



モンタ博士「ヤッター!できた。ジャーン!

『国立第七小学校の校庭植物リスト』

国立第七小学校の校庭植物リスト (まだ完璧ではありませんが・・・。今後加筆訂正します。)

木→コブシ、イチョウ、ビワ、ハクウンボク、ヤエザクラ、ドイツトウヒ、ヒマラヤスギ、クチナシ、ユスラウメ、シロダモ、ザクロ、マサキ、ハクチョウゲ、コデマリ、ガクアジサイ、ヤツデ、カキ、レンギョウ、シモツケ、エノキ、クスノキ、シャクナゲ、シャリンバイ、ネムノキ、アカメガシワ、ユキヤナギ、カリン、ゲッケイジュ、キンモクセイ、ピラカンサ、ハナモモ、ミズキ、クワ、カイズカイブキ、サンゴジュ、ミカン、ウツギ、トウカエデ、ツバキ、オオムラサキツツジ、キャラボク、ハクチョウゲ、イヌツゲ、ムクノキ、プラタナス、シダレザクラ、ツバキ、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、サツキツツジ、モミジ、ウメ、カイドウ、ジンチョウゲ、トウダンツツジ、ハナズオウ、シユロ、アオキ、ムクゲ、ナンテン、クロマツ、エンジュ

草→ノビル、チガヤ、ゼニアオイ、ハナニラ、ヒルガオ、ヘクソカズラ、ノブドウ、ヨモギ、イヌムギ、シロザ、エゾノギシギシ、ホトケノザ、アメリカフウロ、ハナダイコン、ナズナ、オオバコ、キュウリグサ、ヘビイチゴ、トキワツユクサ、ムラサキツユクサ、ジャノヒゲ、ボタン、シャクヤク、ビロードモウズイカ、ツワブキ、パンジー、セイヨウサクラソウ、ナガミヒナゲシ、ハルジオン、ヒメジオン、ハコベ、スズメノカタビラ、カタバミ、オニノゲシ、チチコグサモドキ、オニタビラコ、タネツケバナ、ノゲシ、ホトケノザ、オランダミミナグサ、イヌワラビ、ムラサキケマン、タチイヌノフグリ、カラスノエンドウ、ヒメオドリコソウ、ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク、ドイツスズラン、チューリップ、スギナ、シラン、オオマツヨイグサ、スノードロップ、ハナトラノオ、ミゾイチゴツナギ、タンポポ

オー君 「ところで、モンタ博士。どうしていろいろな名前ができたのですか。」

モンタ博士「いいこと聞いてくれるね。待ってました。まとめてみたよ。『植物の名前なぜ
なぜメモ』（植物の名前のわけ・いわれ・ゆらいーらん）でーす。」

植物のいろいろな特長	代 表 的 な 植 物
やさしく女性的な感じから	ヒメスミレ（姫）、ナヨシダ（弱い）、メヒシバ（メス）、メマツ（メス）
小さくてかわいい感じから	チゴユリ（稚児）、コメツツジ（米）、スズメノテッポウ（小さいスズメ）
大きくて強そうな感じから	カラスノエンドウ（大きなカラス）、オニアザミ（鬼）、オオイヌタデ（大）
根っこの形から	ダイコン（大きな根）、エビネ（エビのような根）、ナガイモ（長いも）
茎・幹の形や性質から	ウツギ（空木）、サンカクイ（三角）、タケ（高い）、サルスベリ（猿滑る）
葉っぱの形から	ツバキ（つや木）、ヤブレガサ（破れた傘）、クルマユリ（車輪状）
花の形から	ネジバナ（ねじれ）、ツリバナ（つりさがった）、ツリフネソウ（船をつる）
果実の形から	オシロイバナ（種に白い粉）、ソラマメ（空を向く）、クチナシ（口無し）
花の色から	シロツメクサ（白い）、アオキ（青い）、アカネ（根が赤い）、ウラジロ（白）
においから	ゴマギ（ごま）、クサギ（臭い）、レモンエゴマ（レモン）、ヘクソカズラ
味から	スモモ、ニガウリ、ニガナ（にがい）、スイバ（すっぱい）、ニガキ（苦い）
しげきがあるので	イラクサ（いたい）、エゴノキ（えぐい）、ハナヒリノキ（くしゃみ）
花のさく時間やじゅ命から	アサガオ、ツキミソウ、マツヨイグサ（待つ宵）、ヒャクニチソウ
花の季節から	セツブンソウ（節分）、フユイチゴ、アキグミ、ハルリンドウ（春）
運動することから	オジギソウ、ネムノキ（ねる）、トビクサ（飛ぶ実＝ホウセンカのこと）
生育する時間から	アシタバ（明日葉）、マンネングサ、
産地の名前のついたもの	カントウタンポポ、シラネアオイ（白根山）、ハクサンフウロ（白山）
生育する環境から	ヤマユリ、ミゾソバ（溝）、イソギク（磯）、ヒカゲスミレ（日陰）
葉や花の数から	イチリンソウ、ミツバ、ヤツデ、ミツバアケビ、クリンソウ
ほにゅう類にたとえて	イタチシダ、ネズミモチ、イヌブナ、ブタクサ、ネコシデ、ウサギギク
鳥にたとえて	カラスノエンドウ、ホトトギス、サギソウ、トキソウ、クジャクシダ
はちゅう類にたとえて	マムシグサ、ヘビイチゴ、ヘビノネゴザ、カメバヒキオコシ（亀）
虫にたとえて	トンボソウ、マツムシソウ、ホタルブクロ、ゲジゲジシダ、ムカデラン
なんたい動物にたとえて	タコノキ、カニコウモリ、エビネ、ジャコシャボテン、カニクサ
いろいろなものにたとえて	イカリソウ（いかり）、ツリガネニンジン、ナンバンギセル
お金にたとえて	コバンソウ、ゼニゴケ、ゼニアオイ、
文字にたとえて	ダイモンジソウ（大）ジュウモンジシダ（十）、チョウジソウ（丁字）
その他の物にたとえて	ハナイカダ（いかだ）、アケビ（開けた実）、キンタマバナ（アツモリソウ）
他の植物にたとえて	ツタウルシ（つた）、クサアジサイ、クサソテツ、スズラン、ユキヤナギ
薬になることから	ドクダミ、ゲンノショウコ、チドメグサ（血止め）、メグスリノキ
そめたりぬったりするから	ヌルデ、ムラサキ、ノリウツギ（のり）、ズミ（染み）、トロロアオイ（糊）
食べられるから	アブラナ、サトウキビ、サトウダイコン、モチグサ
使いみちから	カサスゲ、ツメクサ（つめた草）、ヤダケ（矢）、カマツカ（鎌のつか）
役にたたないにせ物だから	イヌワラビ、イヌムギ、イヌザンショウ、イヌガラシ、イヌタデ
毒を持っている事から	ドクウツギ、ドクゼリ、クワズイモ（食えない）、アセビ（馬酔木）
子どもの遊びから	スイカズラ（すう）、クンショウバナ（ヤエムグラ）、ホウズキ
日本人の名前から	マキノスミレ、スエコザサ
外国人の名前から	シーボルトノキ（シーボルト）、ラフレシア（ラッフルスとアーノルド）
神話・伝説・物語から	アツモリソウ、ラショウモンカズラ、ヒトリシズカ、ウラシマソウ
中間の名前をつけたもの	カスマグサ（カラスノエンドウとスズメノエンドウ）、ヘチマ
反対の名前	シラカシとクロカシ、クロマツとアカマツ、シロブナとクロブナ
とても長い名前	リュウグウノオトヒメノモトユイノキリハズシ（アマモのこと）
とても短い名前	イ（イグサ）、モ（水草）、ナ（菜っ葉）
悪い名前	ヘクソカズラ、クソニンジン、クサギ
全体の植物の様子から	ヤマブキ（山でゆれる）、ユリ（風でゆれる）、ツユクサ（つゆがつく）

レイチェル・カーソンの名著『センス・オブ・ワンダー』（The Sense of Wonder）の一節より

「自然の不思議さや神秘さに目を見張る子ども達の感性を保つためには、それを一緒になって再発見し、感動を分かち合う大人が少なくとも一人、子ども達のとなりにいなくてはならない。」

（レイチェル・カーソンは、公害問題や自然保護活動の先駆者として、世界的に著名なアメリカの海洋生物学者。「沈黙の春」は名著。センス・オブ・ワンダーは、読んでおくと子育てにプラスになると思います…。